広報 かじき

No. 228

昭和49年9月1日

発 行／加治木町役場
編 集／総務課文書係

生きがいを筆に求めて

先生にほめられテレる、おばあちやん（高齢者教室・書道クラブで）

昭和49年

9月号

■メ モ　人口／20,023　男／9,429　女／10,594　世帯／6,452（49年8月1日現在）

お年寄りを大切に 長寿を祝おう

9月15日
敬老の日

少し若返ったようです＝お年寄りに大好評のゲートボール競技

九月十五日は「敬老の日」。そして十五日から二十一日までの一週間は『老人福祉週間』です。

この週間は、多年にわたって社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝うとともに、広く国民が老人の福祉についての関心と理解を深め、また老人自らも生活の向上に努める意欲を高めようという趣旨で設けられたものです。

全国の老齢人口は、医学の進歩による寿命の伸長によって年々増加しています。しかも出生率の低下とあいまって総人口のうちに老齢人口が占める割合いは急激に増加しています。

このままで進むと、昭和八十年には老齢人口は二千七百二十五万人となって、その割合いは総人口の二〇パーセントを越えようと推計されています。

現在あらゆる面から、老人福祉の対策も検討されていますが、今後さらに年金、医療、就労、住宅税制など広い範囲にわたる総合的な対策が必要とされています。

しかし、老後対策の推進は国や県、市町村だけでなく、企業、地域社会、家庭、個人のすべてが参加して、はじめてその効果が期待されるものです。

町では、九月十五日の「敬老の日」に町内の八十歳以上のお年寄りに、長寿のお祝いとして敬老年金をお贈りしています。

満八〇～八四歳まで　三千円
満八五～八九歳まで　六千円
満九〇～九九歳まで　一万円
満百歳以上　二万円

また、地区や部落などでも、お年寄りの長寿を祝う、いろいろの催しが例年、行なわれており、こともこのような行事が町内の各所で催されることでしょう。

わたしたちは、この機会に身近なお年寄りの長寿を祝い、今後の健康を祈るとともに、自分自身の老後について、考えて見ることも大切なことではないでしょうか。

圧倒的に多い 胃ガン死亡

集団検診で早期発見

毎年九月一日から三十日までは「ガン征圧月間」として、全国的に運動が展開されます。

全国の病気による死亡の原因をみると①脳卒中②ガン③心臓病となっています。

この中でガンによる死亡者の内訳は胃、肝臓、食道など消化器系のガンが大多数を占めており、なかでも胃ガンによる死亡が圧倒的に多くなっています。

また、男性では胃、肺、気管支肝臓、女性では胃、子宮、肝臓の順となっています。

現在、胃ガンはもちろん、ガン一般については、その発病の原因がまだはっきりわかっていないので完全な予防法はありません。

そこで、ガンの魔手からのがれる確実な方法は、早い時期にガンを見つけて、ただちに治療することと、つまり早期発見＝早期治療しかありません。

しかし早期のガンは自覚症状がないことが多く、自覚症状に気づいてからガンと診断されても手遅れの場合が多いことです。ですから自覚症状がなくても定期的に健康診断をうけることが最も大事なことです。

県では、ガン予防対策として、胃検診車三台、婦人検診車二台で県下全域の巡回検診を行なっています。昨年度は七万六百六十八人が胃検診および婦人検診を受け胃ガン五十七人、子宮ガン二十七人が発見されています。

ガンの予防には、次のことに注意することです。

▽タバコの吸いすぎ
▽酒などの飲みすぎ
▽塩分のとりすぎ

牛乳を毎日飲んで、健康増進をはかり、つねに身体の調子をととのえておくことが大切です。

しかし、予防の決め手はやはり早期発見＝早期治療にありますから、年一回の集団検診は必ず受けましょう。

ガンは個人の病気であり、個人がガンに注意しないかぎり、ガンは征服できません。

秋の全国交通安全運動

●歩行者・自転車利用者の事故防止
●子どもと老人を事故から守ろう

9月21日(土)⟺9月30日(月)

NHK

加治木中継所が完成

1,110世帯の難視聴解消

八月二十一日から運用開始した加治木中継所

NHK鹿児島放送局では、町内の木田（字樋ノ口＝小山田字の樋ノ迫と字境い）に、テレビの中継所を建設し、八月二十一日から運用を開始しました。

加治木中継所の空中線は海抜高百五十六㍍（鉄塔は十四㍍）で、出力は一ワット。チャンネルはUHFでNHK総合テレビ48、教育テレビ46。

この中継所の完成で、木田の西ノ原、新中、中福良、上木田。反土の西側地区（春日、空港団地を含む）、小山田は井手向、徳永、毛上、小田倉、中郷、迫、川内など千百十世帯が対象となり、NHKテレビ受像の難視聴が解消することになりました。

対象地区外のかたでも、竜門滝の上手方向へアンテナを向けて、映像の状態を試して見ることも一策かと思います。

総合で加治木三位

＝姶良地区体育大会＝

第六回姶良地区体育大会は、八月十一日と十二日の両日、国分市と隼人町の会場で行なわれました。

当町の選手は、よく健闘、次の好成績をおさめました。

▽二位＝陸上競技（男女とも）柔道、蹴球、軟式野球

▽三位＝水泳、卓球、ソフトボール、婦人会バレーボール

▽総合成績＝三位

選手のみなさん、ご苦労さま。

お彼岸

暑さ寒さも彼岸まで…二十日は彼岸の入り、この日を境に残暑はうすらぎ、秋の気配はグッと濃くなります。

秋分の日（二十三日）は、秋の彼岸のお中日で、祖先をうやまい亡くなった人々をしのぶ日です。仏さまにオハギを供えたり、お墓参りなどすると、ふしぎとご先祖様を身近に感じられるものです。

ボランティア活動

あなたの能力や技術を奉仕活動に

町社会福祉協議会（曽木隆輝会長）はボランティア活動（奉仕活動）への参加を呼びかけています

奉仕活動＝ボランティア活動という言葉は、戦時中のいやな思い出を連想しますが、私どもは社会の一員として、つねに社会の相互連帯のもとに生きていることを考えなければなりません。

高度経済成長がもたらした人間疎外、公害、不況、インフレなどが深刻化すればするほど、自分が大事であるように他人もまた大事であり、他人や社会に対するいたわりの心、福祉に欠ける人々に対する人間愛、社会愛が必要となりその表われとしてのボランティア活動が強く期待されるわけです。

皆さんのなかで、もし自分の能力や技術、その他なんでも結構ですが、奉仕活動を希望されるかたがありましたら、左記へお届けください。

町社会福祉協議会・事務局

町福祉センター内②二〇四一

□ボランティア活動の事例

四十八年九月から錦江校区婦人会長＝西迫雅子（現会長＝児玉周子）さんら百人が、国立南九州病院の重症心身障害病棟と筋ジスト病棟のボランティア活動を始める。

四十九年五月から町民生委員の婦人部長＝木場フヂエさんら六名同じく六月から柁城校区婦人会長川井田よお子さんら二十人が、これに加わり三団体百二十六人のかたが奉仕しています。

▽毎週火曜と金曜日の二回

午後一時から午後四時まで。

▽主な奉仕活動

一般清掃、話し相手、衣類のつくろい、名前入れ、洗たく、シーツの取替、子どもの運動など。

事務局では、多数のご参加をお待ちしています。

今月の納税　保険税（第三期分）

竜門句会

青紫蘇の色定まるも晩夏なり　鶴田　耕

語るかに流灯岸に相倚れり　井上透山

這うて行く孫が見つけし西瓜種子　三浦大鵬

不漁かこち海女は家路に月見草　白尾建樹

烈日や征きし日のごと鶏頭燃ゆ　横山江南

朝顔をきれいに咲かせ終戦忌　松永愛子

氷中花情熱すでに今は失せ　中山待香

秋立つと言へど枕のほてり哉　伊丹靖博

味噌汁に涙おとしき地獄八月　川崎鉄男

どこまでも海紅豆燃え島の果て　塩満篤夫

浜木綿に風がからまり髷くずす　林　玄洋

孫来るや先づカブト虫せがまるる　恒吉斗南

盆帰り幼友達妻を連れ　田代俊一

ゴミ作戦朝のチヤイムはまつすぐくる　永田禾陽

少年の非行や家出

夏休み明けが多い

例年、九月は夏休み中におぼえた不良グループとのつき合いや夜遊びなどが原因で、少年の非行や家出が目立つ時期です。

県内における家出の状況を四十八年中にみると家出少年・捜索願いは六百八十一人となっており、高校生がトップを占めています。

家出の原因や動機別では①勉強がきらいトが最も多く、②家庭の不和、③異性関係の順となっており、とくに異性関係では八〇・五パーセントが女子で占められています。

県内のある高校のアンケートによると、百人のうち六十三人は、「家出をしたいと思ったことがある」と答えています。平穏な家庭でも家出の危険性があります。

そこで、各家庭でも、次の点に十分注意して、少年を非行や家出から守るようにしたいものです。

①…夏休み中の不規則な生活態度から一日も早く、規則正しい生活に戻るようにさせる。

②…子どもが外出や外泊をするときは、行く先や帰宅時間などを確かめ、守らせるようにする。

③…学校からの帰宅時間が不規則になるなど、不審な点が見られるときは、その原因を確かめ、子どもの日常生活に注意する。

④…毎日のできごとが気軽に話し合えるように、ふだんから明るい家庭づくりに努める。

⑤…子どもの問題で心配ごとや悩みごとがあるときは、警察署の少年相談係を利用するなどして、早くその解決をはかるようにする。

黛　ジュン

霧島　昇

〝歌謡ショー〟にギッシリ

会場に三万五千人

第8回夏まつり

第八回目を迎え、すっかり町民のものとなった、ことしの町民夏まつりは八月二日と三日の両日に行なわれ、町内外からつめかけた大勢の人でにぎわいました。

初日の前夜祭は、網掛川児童公園付近を会場に、演芸大会や花火大会、とうろう流しなどの催しがあり、網掛川沿いの提防や道路はズラリと軒を並べた焼イカや金魚売りなどの夜店とともに、ゆかた姿や子どもの手を引く親子連れなど行き交う人々でにぎわい、夏の夜の風物詩を楽しんでいました。

二日目は午後四時から、恒例の踊るパレードで本祭が幕明けされにぎやかなハンヤ節やオハラ節とともに明治乳業前から向江町、西町、蒲生田、端山、新道、そして会場の加治木高校グラウンドへと踊りの列が流れ、つめかけた沿道の観衆の目を楽しませました。

高校グラウンドの中央に設けられた仮設舞台ではバーゲン・セールや抽せん会など数々の催しがあり、お待ちかねの〝歌謡ショー〟へと舞台が変わる。

まこて、よく笑わす司会者の紹介で黛ジュンが登場、軽いテンポのメロディとともに彼女のヒット曲をつぎつぎに被ろうする。

つづいて、昔なつかしいナツメロにのせて『歌い続けて四十年』という霧島昇が登場。まず昭和十五年ヒットの〝純愛二重奏〟をトップに「一曲一曲に思い出があります…」という〝目ん無い千鳥〟〝旅の夜風〟〝だれか故郷を思わざる〟など往年のヒット曲を直立不動の姿勢でうたい、会場の三万五千の観衆を魅了させました。

会場のあちこちでは、昭和十四五年当時を思い出したかのように四十代以上の年輩のかたがたが、一緒になってナツメロを口ずさんでいるのを見うけました。

こうして二日間にわたる第八回の町民夏まつり大会も、町商工青年部員をはじめ、婦人会、各種団体、グループなどの協力によって盛会のうちにフィナーレをむかえ十六夜（いざよい）の夜空に、高くパッと咲く数発の大型尺玉花火で幕となりました。

みなさまご苦労さまでした。

技能検定試験

10月14日締切

建築大工や配管、かわらぶきなどの技能を検定する四十九年度後期の技術検定試験が行なわれます。

□検定実施の職種

建築大工、配管、鉄筋組立、かわらぶき、ガラス施工、時計修理、染色、紳士服製造、和裁寝具製作、製服、印刷、建築製図、スレート施工、機械製図、石工、型わく施工などの職種。

□申請書の受付

九月三十日（月）から十月十四日（月）まで

□申請書の提出先

鹿児島市山下町十四番五十県庁内、鹿児島県技能検定協会詳細は同協会（電話〇九九二―26―八一一一番）へ照会のこと

訂正

本紙八月号⑧ページ香典返し寄付の記事中「四元裕志」は西元裕志の誤りでした。

⑤ページのナンコ大会の記事中「加治木ナンコ三級…」は、鹿児島県ナンコ同好会長から三段、二段、初段の段位免状の誤りでしたお詫びして訂正いたします。

太鼓踊りで終日にぎわう

炎天下に百十余人が出場

踊り手不足に老人や女生徒

加治木三大行事（太鼓踊り、クモ合戦・夏まつり）の一つ、恒例の太鼓踊りは、お盆明けの八月十六日に行われ、各大字で朝早く打ち鳴らす集合のカネの音とともに加治木の町は一日中、カネや太鼓でにぎわいました。

反土、木田、小山田、西別府の四大字から、くり出した百十余人の踊り隊は、午前八時に春日神社で次々に踊りを奉納、神社境内には付近の春日団地や空港団地、高井田などから大ぜいの人がつめかけ、ときならぬ早朝の踊りを見物していました。「加治木の太鼓踊りを見るのは始めてだ。勇壮な踊りですね。出勤前の涼しいときに見物できてとてもラッキーでした」とカメラのシャッターを切るサラリーマンもいました。

午前十時、太鼓踊りの大きなヤマ場であり、見せ場とも言われる仮屋馬場（柁城小前の大通り）の打ち上げが始まる。

打ち上げとは、加治木郷土誌によると「道踊り（道太鼓）＝これは一種の行進曲である。これは庭踊りをする場所から場所へと進むときの踊りである。とくに打ち上げと称せらるる行進、すなわち昔は義弘以下の諸大名の館である仮屋馬場の西門に入る際の鉦（カネ）太鼓の音はきわめて勇壮で、遠くから聞くと数千の大軍が一時におし寄せてくるような音に聞こえるが、今日では庭踊りを見ようと集まる観衆のまちわびた気持を更にわきたたせるに十分である」と記されている。

ホタ振りを先頭に仮屋馬場の打つちやげ

焼けつくような炎天下で、白くぬった厚化粧を汗に流し、肝いりの差し出すヒシャクで水を飲み、カネ打ち、ホタ振り、太鼓小ガネ打ち、役員肝いり（世話役）が一体となって次々に力いっぱいの踊りを観衆に披ろうする。

吉左右（きそ）踊りの赤キツネの役を演じる西別府の森木清志さんは

「数えで八十にないもした。若け衆が踊ろち言もはんな…。今年は出らんつもりごわしたどん、この踊りを守り続けていくためには、このオンジョが出らんこてな仕方ごあはんな…」と、息をはずませながらシュロの皮のカツラをかぶりなおし、小道具の金ダライを持って再び踊りの先頭に立っていきました。そして森木さんの後で男の中に混じり恥らいもせずに大きな鼻ヒゲをつけて踊る三人の女子生徒（中学生二、高校生一）の姿がとても印象的でした。

一方、木田の大脇菊志さんは、「良か衣しょうを着て見いかたよか、踊った方が涼しかんさ。もう七十五じゃっどん、まあーだまだ中学生には負けもはんな。どこも踊り手がおらじ残念なことです。今年から孫（大脇久雄＝錦江小二年）と始めて一緒に踊りかたごあんさ爺さんにとって、こげなうれしこちゃごあはんな。孫のためにも今日は最後まで爺さんの踊りを立派に踊って見せたい―」と、鼻息の荒いところを見せ長老の貫録十分。

また、反土の踊り隊には小陣の浜田直子ちゃん（二つ）と瀬戸口忠ちゃん（三つ）が小ガネ打ちとして登場、カメラマンや観衆の注目を浴びていました。「てせは、なかか…」とたずねる親の心配をよそに、二人の小ガネ打ちさぁたち無事に仮屋馬場ん打っちゃげを踊りとおす

中年層の踊り手がどこも少ないといわれている加治木の太鼓踊りも、女子生徒の出場でピンチを脱し、そして踊りを愛するおじいさんから孫へと、古い踊りが受け継がれ守られていきます。

こうして毎年、踊り継がれている郷土の踊りを、なつかしく誇りとする県外からのお盆帰省者が、カメラや八ミリいま流行のカセットコーダーにさかんに納めているのが目立ちました。

たえず新しい物を好み、目を向けがちな現代の世相の中で、残された数少ない古い伝統だけは、加治木があるかぎり、私達は町民として守り続けていきたいものです

セイダカアワダチ草
ぜんそく疾患の恐れ

九月中旬ごろから晩秋にかけて鉄道沿線や道路脇、河川敷地その他の空地などに黄色い花をつける背の高い雑草をよく見受けます。この雑草の多くは〝セイダカアワダチ草〟です。原産地は北米で戦後九州北部から、ひろがった帰化植物です。

ところが、このセイダカアワダチ草の花粉は〝花粉病〟の原因となり、体質によってアレルギー性のぜんそく疾患が出ることもあります。

防除方法は特になく、見つけたら根こそぎ引き抜いて処分する手しかありません。

黄色い花をつけた背の高いセイダカアワダチ草に十分注意しましょう。

＜生態＞キク科の多年草で、北アメリカ産の帰化植。地下茎は地中を横走し、茎は短毛が密生し、高さ一～二・五㍍に達する。葉は厚く密に互生し、少数の低いキバ歯がある。晩秋になると茎頂に高さ十～五十㌢の大きな円錐形の花序をつけ、多数の黄色の頭状花をつける。近年都会地に接した荒地や原野に群落をつくってはびこるようになった。原産地では、花粉アレルギーを起こすので問題になっており、日本でも注目されている

婦人会だより

七月二十九日　町婦人団体連絡会を開催「町内の各種婦人団体が手をにぎり、横の連携を保ちながら教育と文化の町に恥ない町づくり、人づくりをしていくため、それぞれの立場で、意見を出しあい協力していこう」という趣旨のもとで、さる二月に準備会がもたれていたものです。

当日は、町婦人会、農協婦人部民生委員、未亡人会それに加治木保育所、柁城小、錦江小、竜門小竜門中、加治木中、加治木高校の母親代表らが集まり、正式に発会の運びとなりました。

会では、それぞれの団体の現況他の団体に協力してほしいことやこれからの会の運営などを話しあいました。団体は違っても同じ婦人の立場をいかし、明るい町づくりを目指していきたいものです。

十一月と来年の二月に再び、会を持つことを申し合わせました。今回、ご出席できなかった団体のかたも、次回はご出会されて一緒にすすんで参りたいと思います。

八月十日　婦人会バレー郡大会隼人町体育館で開かれ、国分・姶良地区から十一チームが参加した加治木は善戦したが三位に入賞。皆さまがたのご声援ありがとうございました。来年もよろしく。

生活学校　九月に生活学校第二回目が開かれます。今回のテーマは「清涼飲料水」と「牛乳」です

かねて疑問に思っていることやお気付きの点などを持ちよって一緒に勉強したいと思います。気軽にご参加ください。

香典返しを寄付

香典お返しのかわりに、ご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげます。（　）内は故人。

□町社会福祉協議会へ

一万円　伊部野　日高ヒモ（夫光義）
五千円　田　中　橋口幸子（父松三）
五千円　見　帰　犬童幸江（夫照男）
三万円　西汐入　榎園京子（夫栄吉）
三万円　須　崎　竪山玉乃（夫喜一郎）
一万円　吉　原　徳永実利（長男敏幸）
一万円　鶴　原　向江久子（嫁初子）
五千円　桃木野　隈原　優（母イセギク）
一万円　札　立　内村笑蔵（妻ケサ）
一万円　毛　上　大村清蔵（妻ミサ）
一万二千円　里　下　今村　清（次女百合子）

□町育英奨学資金へ

一万円　須　崎　竪山玉乃（夫喜一郎）

□町国民年金協議会へ

一万円　西諏訪　小浜末雄（母スへ）
五千円　札　立　内村笑蔵（妻ケサ）

八月二十日までのご寄付を掲載しました。

町内の在宅医

【九月】

1日　池田医院　②二二二〇
8日　岩崎(昭)医院　②二三一五
15日　大川医院　②二〇三二
16日　神田橋医院　②二〇二四
22日　平山医院　②二四六八
23日　玉利医院　②二二二八
29日　壱岐医院　②二二二二

【十月】

6日　岩崎(昭)医院　②二三一五
10日　池田医院　②二二二〇
13日　大川医院　②二〇三二
20日　神田橋医院　②二〇二四
27日　平山医院　②二四六八

■診療時間は午前九時から午後五時までが原則です。

■当日の往診ならびに緊急以外の受診は、ご遠慮下さい

随想 ―57― 縄文村への返信

曽木輝隆

蔵王岳の麓、縄文村からのたよりを寄せられた、常盤スミエさんほか二十数名のみなさんへ心からお礼を申しあげます。

ことしの暑さは、ことのほか厳しかったようです。夏まつりお盆、太鼓踊り、郡体はじめ体育行事など炎暑のなかに、にぎやかに行われました。

八月なかば全国高校野球大会で鹿児島実業が実に善戦しましたがあと一歩というところで敗れ残念でした。そのテレビを見たあと私は、みなさんからの〝おたより〟をたんねんに拝見しました。

蔵王岳の麓にある三諦寺跡の遺跡発掘を県教委の文化課で計画され、本年三月なかばから石野部落の石野チエ子さん、長谷部落の緒方トキさん、中野部落の松元ノブさんら二十数名が作業員として参加されたのでした。

その体験記を徳永美彦、坂元秀義、有村進さんらがまとめて刊行されたものですが、内容は簡単でもまとまっていて驚きました。

失礼ながら、みなさん五十代、六十代のかたで、古代史とか文化財とか以前別に興味もおもちでなかったでしょう。でも半年も作業しておられるうち、調査員の先生がたの指導で、ひとかどの知識をおもちになりました。

数千年前、それは日本では神代でしょうが、ここ蔵王岳の麓に、われわれの祖先が住んでいて、どんな生活をしていたのかを想像しながら、みなさんは一片の土器や矢じりにも入念に注意して集められた様子が文中に、よく現われています。

その姿はもう一人の作業員ではなしに、一人の学研者であるかのようで、敬服のほかありません。

私はおたよりを読んでいるうちじぶんも何だか古代人に帰ったようになりました。日韓問題とか物価のこととか、幼児誘かいとか、殺人とか、公害とか、政治社会のややこしい現象から離れて、文字もなかった、米つくりも始まっていなかった原始時代に生きていた人たちの姿を想像して、現代に生きて果たしてよかったと言えるのだろう……など、思っても見ました。